

英検[®] 2 級 単熟語 フレーズシステム

A Systematic Approach to
the EIKEN Test
Grade Two

PRODIGY 英語研究所 霜 康司



ここがスゴイ! 本書と類書の違い!!

英検対策の参考書はどれをやっても同じだと思わないでください。同じ英検の過去問題を分析して作成されているはずなのに、書籍によって内容も違えば、学習効率もまるで違います。何がそんなに違うのか、まずはそれを知っていただきたいと思います。

1 類書にない重要単語・熟語が身につく!

本書と類書の違いは、その索引を比べるとすぐにわかります。例えば、次の単語をみてください。

○…収録あり ×…収録なし

	本書	某単語集
abandon	○	×
abrupt	○	×
accustomed	○	×
ambition	○	×
appliance	○	×

(「某単語集」とは英検2級対策の単語集としていちばん売れている単語集です。)

某単語集にはないこれらの単語を本書に収録したのは、ズバリ、**実際に英検2級で出題されている**からです。

例えば、**abandon**は2016年度第1回の大問1で選択肢として出題されています。同様に、**abrupt**は2016年度第2回、**ambition**は2020年度第3回、**appliance**は2020年度第3回で出題されています。

さらに、**accustomed**は2016年度以降だけでも**3回**も大問1に登場しており、**2017年度第2回では正解の選択肢**になっています。つまり、これらは英検2級合格の重要単語と言えるのです。なぜ某単語集に収録されていないのか、首をかしげざるをえません。

熟語もみてみましょう。ここでも、英語教師なら誰もが重要だと認める次の表現が、某単語集には収録されていません。

	本書	某単語集
(all) the more (+理由)	○	×
(be) as good as one's word	○	×
at A's best	○	×
at first sight	○	×
cannot help Ving	○	×

cannot help Ving は日本の高校では必ず教える重要表現ですし、英検2級では2021年度第1回に出題されています。「英検の過去問題を分析」と謳っている参考書が、正確に過去問をカバーし、分析しているとは限らないのです。

さらに解説の中身も見てみましょう。例えば、**after all** という熟語がありますが、類書でどんな意味が紹介されているか、確認してみてください。もし「結局(は)」という意味しか挙げられていなかったら、その本は実践的ではありません。

本書の **after all** の項目を見ていただくと違いがわかるはずです。

1096 □□	Mom's baking a cake. After all, it's my birthday.	ママがケーキを焼いてくれている。 だって 僕の誕生日 だから 。
	◆ after all ☆「だって[何しろ]…だから」と、相手がすでに知っていると思われる理由を述べる ときに使う。文頭ではたいていこの意味。文末、文中では「結局」の意味。	だって [何しろ] …だから

英検2級では、この意味で出題された!

他にも同じような例がたくさんあるのは言うまでもありません。本書と類書の違いは歴然です。

では、なぜこのような違いが生まれるのでしょうか。

●信頼のデータ

本書を作成するに当たっては、PRODIGY 英語研究所の次のデータを主に使用しました。

- ① 英検の過去問題や英検対策の参考書
- ② 中学校及び高等学校の英語検定教科書
- ③ CEFRに基づいた各種 Word List
- ④ 新聞・雑誌・シナリオなど英文1億語のデータ

①の英検の過去問題を最も重視しました。しかし、あまりに古い問題は内容的に今の状況とずれてしまうので、特に形式の変更があった**2016年度以降の過去問を重視**して、その登場頻度を元に単熟語を配列しています。

②の検定教科書は、学校英語と英検の橋渡しができるよう、《文法チェック》などで学習者の便宜をはかるために用いました。また、日本英語検定協会によると、2級は「**高校卒業程度**」と位置づけられていますから、たとえ過去に英検で出題がなくても、高校英語の重要単語は取りこぼしがないようにしています。

③のCEFRとは、Common European Framework of Reference for Languagesの略で、外国語によるコミュニケーション能力のレベルを示す基準となっています。英検2級は**CEFRのB1レベル**を想定していますから、CEFRの語彙レベルを示す各種 Word Listも参考にしました。ただし、日本及びヨーロッパに複数あり、それぞれに特徴があるので、その利用には細心の注意を払いました。

●複合的に分析し「覚えるべき」ものを厳選

ちまたには「試験に出た」と謳う英単語集がたくさんあります。でも「**試験に出た**」ことは**全部「覚えるべき」**なのではないでしょうか。

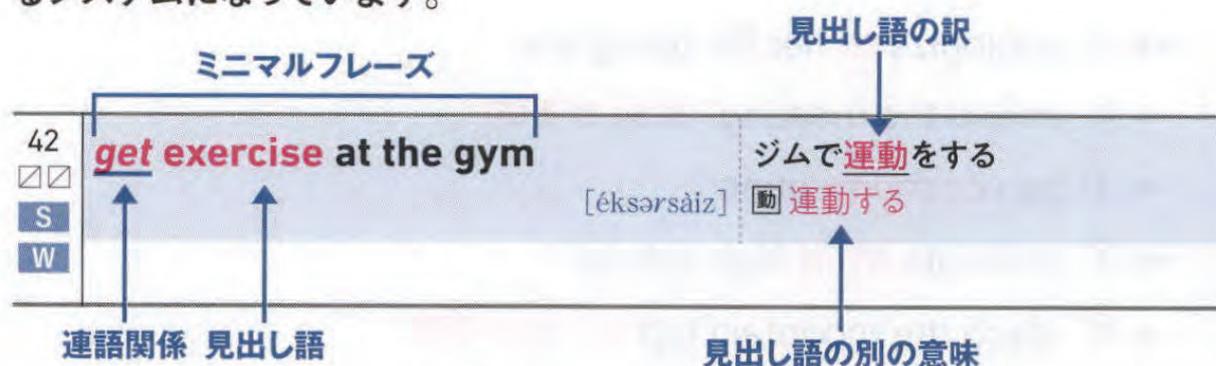
例えば、**take away from A**「～の価値を落とす」という熟語があります。英検では2021年度第2回などに選択肢として複数回登場していますが、果たして2級の受験生が覚えるべき熟語なのではないでしょうか。

過去問という範囲だけをみれば、当然覚えるべきかもしれませんが、高校の検定教科書、大学入試などの英語教材、Cambridge大学のCEFRのWord Listを調べてみると、take away from A「～の価値を落とす」は**かなり登場頻度が低い**表現です。だからこそ、take away from Aは英検2級では誤答の選択肢としてしか出題されていないのでしょう。受験者が覚えるべき表現は他にたくさんあります。

このように試験に出たからといって、必ずしも今すぐ覚えるべき単語だとは限りません。本書に掲載しているのは、①～④の膨大なデータを複合的に調査した上で〈覚えるべき〉と判断した単語と熟語ばかりです。どうか安心して学習してください。

◆ ミニマルフレーズ・システム

本書は掲載単語の的確さだけでなく、その覚え方も類書とは一線を画したシステムを採用しています。その根幹にあるのが〈ミニマルフレーズ〉です。minimal(ミニマル)は「最小限に小さい、極めて少ない」という意味です。芸術の世界には「ミニマリズム」と呼ばれる表現様式があります。必要最小限の要素だけを残し、それ以外を排除・省略するスタイルですが、本書のミニマルフレーズもそれに倣い、**最小限の労力で必要な要素を鮮明に覚えられるシステム**になっています。



英単語を覚えるには、その単語の個性をつかむことが大切です。発音を間違しやすい単語、語法がやっかいな単語、類義語との区別が難しい単語など、それぞれ覚えるべきポイントが異なります。

ミニマルフレーズにはそれを反映させ、韻を踏んだフレーズや語法を意識したフレーズ、類義語との違いがわかるフレーズと、さまざまな個性を持たせています。長いものも短いものもありますが、どれもが**現代英語のエッセンス**

を最小限の労力で覚えられるよう配慮したものです。

次に、ミニマルフレーズの特長を具体的に見ていきましょう。

● 語法が自然に身につくミニマルフレーズ!

英語を少しでも学んだことがある人ならば、英単語を学び使うときには日本語と違う点に気をつけなければいけないことを知っているでしょう。動詞なら自動詞か他動詞か、どんな文型を取り得るのか、名詞なら可算名詞か不可算名詞か、どんな動詞と結びつくのか、といったことです。

試しに次のフレーズを見てください。どれも2級のライティング(英作文)で用いたい表現ですが、間違いがあります。正してみましょう。

- | | |
|----------------------------------|---------------|
| ① × apologize her for being late | 「遅れたことを彼女に謝る」 |
| ② × attend to the meeting | 「会議に出席する」 |
| ③ × ban to carry guns | 「銃の所持を禁止する」 |
| ④ × graduate high school | 「高校を卒業する」 |
| ⑤ × reach to the mountain top | 「山頂に達する」 |

正解は次のようになります。

- ① apologize to her for being late
- ② attend the meeting (※ to が不要)
- ③ ban carrying guns
- ④ graduate from high school
- ⑤ reach the mountain top (※ to が不要)

英語の自動詞・他動詞は個別に決まっているので、動詞と一緒に語法を覚えておかないと正しく使えません。でも単語を覚えるときに、例えば①について「apologizeは自動詞」と語法だけを取り出して覚えるのは面倒です。その代わりに、正解例のようなミニマルフレーズで覚えればよいのです。①の正解例にはapologizeが自動詞でtoが必要だという情報が含まれていますね? 要は正しい英語のフレーズをそのまま覚えさえすれば間違いありません。

自動詞・他動詞の区別だけではありません。③のbanのように不定詞to Vを続けるか、動名詞Vingを続けるかが重要な動詞もあります。こうした語法のポイントを含んでいるのが本書のミニマルフレーズなのです。

さらにミニマルフレーズは記憶に定着しやすいように、音声面も考えて作られています。例えば下のaffordのフレーズを声に出して読んでみてください。

617 ☐☐ S W	can't afford a Ford	フォードの車を買う余裕がない [əfɔ:rd]
	☆affordはその90%以上の用例でcan, cannot, be able toと共に用いる。	
	◆can afford to V	Vする余裕がある

声に出してみると、すぐに気がつきましたね？ そう、このフレーズは韻を踏んでいるのです(ダジャレと言った方がわかりやすいでしょうか)。それに気づければもう語法を間違えることはありません。

このように、ミニマルフレーズは音声的にも覚えやすく工夫されているのです。最小の努力で英単語とその語法を覚えられるのがミニマルフレーズ・システムなのです。

●コロケーション(連語関係)も身につくミニマルフレーズ!

ミニマルフレーズの次の利点は、周りの単語とのコロケーション(連語関係)を覚えられることです。まず、名詞と動詞の結びつきをみてみましょう。赤字の名詞を意識して、下の空所に適当な単語を入れてみてください。

- ⑥ 難しい決定をする → () a difficult **decision**
- ⑦ 冒険をする → () an **adventure**
- ⑧ 社会に貢献する → () a **contribution** to society
- ⑨ 意見を言う → () an **opinion**
- ⑩ 敵に復讐する → () **revenge** on the enemy

空所になっているのは日本語の「する」「言う」にあたる動詞の部分です。『「する」はdo, 『言う』はsayじゃないの?』と思っている人がいるかもしれませんが、do one's homework「宿題をする」のように、doが日本語の「する」に相当するのは少数にすぎません。

〈動詞＋名詞〉の連語関係は決まっています、たとえば「進歩する」は make progress であって、do を使うことはありません。

上の問題は⑥ make, ⑦ have, ⑧ make, ⑨ give, ⑩ take が正解です (別解もありますが)。英語を自由に話したり書いたりするためには、このような〈動詞＋名詞〉のセットが不可欠です。英単語を単語だけで覚えるのではなく、実際に使えるミニマルフレーズの形で覚えるのが実践的です。

●前置詞の語法もミニマルフレーズ!

ライティング (英作文) やスピーキング (面接) では前置詞の語法も重要です。赤字の名詞と前置詞の相性に注意して次の空所に適切な前置詞を入れてみてください。

⑪ 間違った方向に進む

→ go () the wrong **direction**

⑫ 科学の進歩

→ **advances** () science

⑬ その規則の唯一の例外

→ the only **exception** () the rule

⑭ コミュニケーションの障害

→ an **obstacle** () communication

⑪を除いて、日本語の「の」に相当する前置詞です。「の」というと、of が思いつきやすいでしょうが、ここでは違います。別解もあり得ますが、赤字の名詞との連語関係から、⑪⑫は in, ⑬⑭は to が正解です。

●音声も最速で身に付く〈トリプルリピート方式〉!

本書の見出し語 (1から1972までの番号が振ってある単熟語) の音声は、無料でダウンロードできます (ダウンロード方法は p. 18を参照)。各単熟語の音声は次のように収録されています。

〈英語フレーズ〉 → 〈フレーズ日本語訳〉 → 〈英語フレーズ〉 → 〈英語フレーズ〉

本書は1つのフレーズが3回繰り返される〈トリプルリピート方式〉を採用しています。これは、英語を1度だけ聞いて覚えられる人はほとんどいないからです。記憶を作るには同じフレーズを繰り返すことが必要ですが、それができるのがミニマルフレーズの強みです。

類書の中には例文で英単語を覚えさせようとする書籍もありますが、長い例文だと〈トリプルリピート〉方式にできないのは明らかです。ピンポイントに学習項目を絞ったミニマルフレーズは、最速で英語をマスターする近道です。

テキストを目で追いながら、聞こえてくる音に続けてフレーズを声に出してください(シャドウイングと言います)。漠然と聞き流しているよりも、シャドウイングで声にする方がはるかに短時間で(半分ぐらいの時間で)記憶を作ることができますから、ぜひ試してください。

3 英検の出題ポイントがわかる!

本書はさらに英検で問われるポイントまで理解できるシステムになっています。

●2級だから出る! 多義語・多機能語を見逃すな!

2級の問題では、準2級までに出現されてきた単語や熟語でも、それとは別の意味や語法も出題されます。例えば準2級にも登場する **result** 「結果」ですが、この単語には動詞としての用法もあり、それが2級では出題されます。

Our efforts **resulted** in success.
(われわれの努力は成功に終わった。)

さらにややこしいことに、**result**には次のような使い方もあります。

Our success **resulted from** our efforts.

(私たちの成功は努力から生じた。)

A result in B「AはBという結果になる」= **B result from A**「BはAから生じる」(Aが〈原因〉, Bが〈結果〉)

このように、同じ表現でも、知っている意味と違う意味や語法で出題されることがあるので注意が必要です。

本書ではこのような多義語には、**多義**マークを付けて注意を喚起し、それぞれの意味のフレーズを掲載しています。

●出題セクションがわかる!

さらに、2級の過去問データから傾向を割り出し、どのセクションで出題されやすいかをマークで表示しています。大問1の選択肢として過去に出題された単語には**語句**マーク、リスニングに登場した単語には**L**マーク、ライティングで必要な単語には**W**、面接で話すときに必要な単語には**S**を付けています。リーディングのマークがないのは、本書の大多数の単語がリーディングで出題されているからです。

間違いやすいポイントを把握する一助に、このチェックマークを活用してください(ただ、上記マークを過剰に意識しないように。決して、リスニング用、ライティング用、スピーキング用の単語といったものがあるわけではありません。本書に登場する全ての単語を4つの技能で自由に使いこなせるようになってください)。

●〈文法チェック〉で必須の文法事項をマスター!

英検2級の大問1では、単語や熟語の問題だけでなく、分詞構文、仮定法などの英文法の問題も出題されます。そのような文法項目については本書の《文法チェック》でまとめていますから、確認しながら進みましょう。

●ライティング&スピーキング対策もできる!

英検を受験するにあたって、多くの人がライティング(英作文)とスピーキング(面接)に苦手意識を抱いていることでしょう。

でも安心してください。本書では、それらに必要とされる単語やフレーズが身につくだけでなく、特別付録としてライティング対策とスピーキング対策をまとめています。4技能にしっかり対応できる1冊となっています。

* * *

以上が特長の説明ですが、最後に、本書を手にとってくださった皆さんにお願いしたいことがあります。それは、苦行にならないように工夫しながら、英語学習を継続してほしいということです。朝できなければ夜に、今日つまずいたら明日、やり直しましょう。黙読したり、音を聞いたり、声にだしたり、書いたり、いろいろ試してみましょう。1日の歩みは遅くとも1カ月で驚くほど成果があがることもあります。楽しみながら継続すれば英語力は必ず伸びますから、目標達成まで絶対にやめないでください。

本書を出版するにあたってさまざまな方のお世話になったことをここに記しておきます。とりわけ、生徒の皆さんからは多くの示唆をいただきました。重要なポイントを直接知ることができたのは、私にとって英語教授上の大きな財産となっています。この場を借りて御礼を申し上げます。

また、私のほかの著作と同じくPreston Houser先生には英文を厳しくチェックしていただきました。これまたいつものように、ナレーターのAnnさん、Howardさん、尾身さん、亀田さんは、そのすばらしい声で本書に命を吹き込んでくださいました。編集の柿倉さん、竹田さんには最後まで多くの助言をいただきました。皆様のご尽力のおかげで、最高の英検参考書を上梓できたと確信しています。本書を通して、読者の皆さんの世界が広がってゆくことを切に願っています。

2022年12月吉日 著者しるす